MO ディスクドライブ

MO-CIU シリーズ
ユーザーズマニュアル

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 **に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。**

次の動作マーク .... 次へ **に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。**

文中の用語表記

- Windows搭載パソコンの場合、本書では次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
  C: ハードディスク
  D: CD-ROMドライブ
- 「i.LINK」と「FireWire」、「IEEE1394」は同じインターフェースです。本書では「i.LINK」と「FireWire」を「IEEE1394」と表記しています。
- 本書では、Microsoft社 Windows Millennium EditionをWindowsMeと表記しています。
- 本書では、Microsoft社 Windows98 Second EditionをWindows98SEと表記しています。

目 次

1 はじめに

本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

特長

● USB、IEEE1394（i.LINK、FireWire）に両対応
USB、IEEE1394の両方のコネクタを装備しています。

⚠注意 いずれか一方のコネクタにだけ接続してください。両方のコネクタに同時に接続して使用することはできません。

● IEEE1394ハブ（リピータ）機能搭載
背面にIEEE1394コネクタを2つ搭載しています。IEEE1394ハブやIEEE1394機器を接続できます。

⚠注意 USBケーブルで接続しているときや、本製品にACアダプタが接続されていないときは、本製品に接続したIEEE1394機器は使用できません。

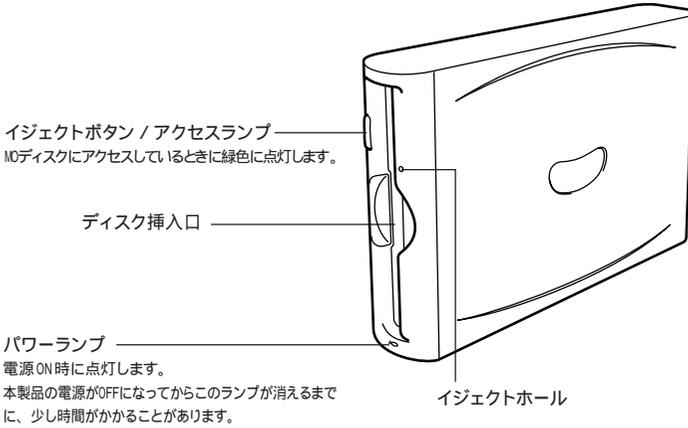
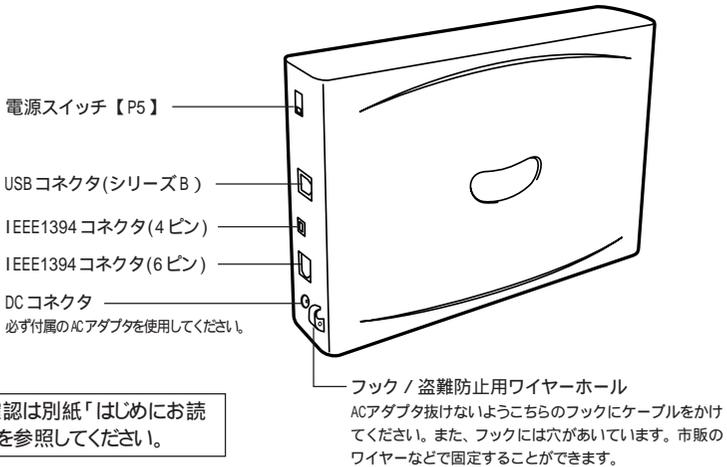
● プラグ＆プレイ、ホットプラグに対応
本製品やパソコンの電源がONの状態でもケーブルを抜き差しして、自由につなぎ替えられます。

⚠注意 ケーブルを抜くときは、必ず定められた手順に従ってください。【P15「本製品の取り外しかた（USB接続の場合）」、P16「本製品の取り外しかた（IEEE1394接続の場合）」】

● PC連動AUTO電源機能を搭載
パソコン本体の電源ON/OFFに合わせて、本製品の電源も自動的にON/OFFします（手動でON/OFFすることもできます）。

● ダイレクトオーバーライト方式（DOW）に対応
オーバーライト（OW）に対応したMOディスクでダイレクトオーバーライト方式による高速書き込みが可能です。

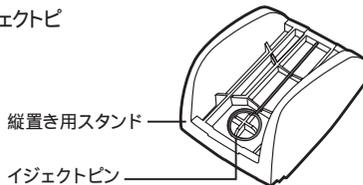
各部の名称

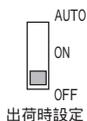
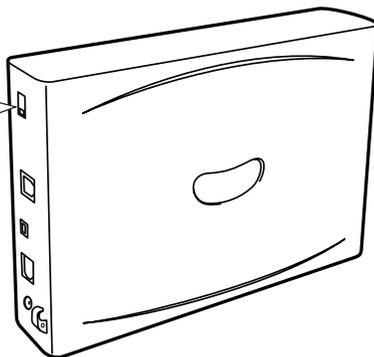
● 前面

● 背面

付属品の確認は別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

●縦置き用スタンド

縦置き用スタンドの中に、イジェクトピンを保管することができます。

縦置き用スタンド

イジェクトピン

電源のON/OFF

本製品の電源は、「PC連動AUTO電源機能」によってパソコン本体の電源ON/OFFに合わせて自動でON/OFFすることも、手動でON/OFFすることもできます。

⚠注意 「PC連動AUTO電源機能」 使用時の注意

電源スイッチを「AUTO」にしても、パソコンによってはパソコン本体の電源に連動してON/OFF切り替わらないことがあります。このようなときは、電源スイッチを「ON」または「OFF」にして切り替えてください。

1

はじめに

2 セットアップ

本製品のセットアップ手順を説明しています。

セットアップのながれ

本製品のセットアップ手順は次のとおりです。

Windows搭載パソコン

本製品のDCコネクタにACアダプタを接続し、ACアダプタをコンセントに接続する

▼

パソコンの電源スイッチをONにする

▼

付属のユーティリティCD(CD-ROM)をCD-ROMドライブにセットする

▼

「簡単セットアップ」が起動したら、画面の指示に従って操作する

Macintosh

本製品のDCコネクタにACアダプタを接続し、ACアダプタをコンセントに接続する

▼

パソコンの電源スイッチをONにする

▼

USBで接続する手順

▼

付属のUSBケーブルでパソコンに本製品を接続する

ドライバ、ソフトウェアのインストールは必要ありません。

IEEE1394(FireWire)で接続する手順

▼

Mac OS 8.6/9をお使いの場合、付属のユーティリティCDで「Disk Drive TuneUp-SE」をインストールします【P9】。

Mac OS Xをお使いの場合、ドライバ、ソフトウェアのインストールは必要ありません。

▼

付属のIEEE1394ケーブルでパソコンに本製品を接続する

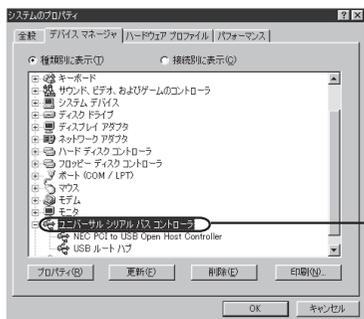
● PC98-NXシリーズを使用しているときは、CyberTrio-NXが「アドバンストモード」になっていることを確認してください。
アドバンストモードになっていないと、本製品のドライバをインストールできません。次の手順でアドバンストモードに変更してください。

・ モードの確認方法
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータ の色で確認できます。

赤 アドバンストモード		設定を変更する必要はありません。
黄 ベーシックモード		アドバンストモードに設定を変更してください。
緑 キッズモード／カスタムモード		アドバンストモードに設定を変更してください。

・「CyberTrio-NX」のモードの変更方法
再起動後もアドバンストモードになるように設定を変更します。詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。
① [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[Go To アドバンストモード]の順に選択します。アドバンストモードに切り替わります。
② [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[CyberTrio-NX セットアップ]の順に選択します。
③ [CyberTrio-NXのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。[アドバンストモード]を選択して[OK]をクリックします。

以上でアドバンストモードに設定されました。
本製品のドライバをインストールした後はアドバンストモード以外のモードも使用できます。任意のモードに変更してください。

● Windows98（Second Editionを除く）でUSB接続するときは、次の確認を行ってください。
① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。
②メニューが表示されたら、[プロパティ(R)]をクリックします。
③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
④ [ユニバーサルシリアル バス コントローラ]の下に表示されているデバイス名を確認します。

[NEC PCI to USB Open Host Controller] と表示されている場合は、Windows98 System updateをインストールする必要があります。

※ Windows98 System updateは、マイクロソフト社のホームページ（http://windowsupdate.microsoft.com/）からダウンロードできます。

● すでに弊社製MOドライブを使用している環境からWindowsをアップグレードする場合は、事前にMOユーティリティをアンインストールしてください。【P29】

2
セットアップ

Windows搭載パソコンでのセットアップ手順

付属のユーティリティ「簡単セットアップ」の指示に従ってセットアップを行います。詳しい手順は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

メモ ・本製品のユーティリティがインストールされると、[プログラム]フォルダに[MOユーティリティ]フォルダが追加されます。

※「MOコピー」と「ダストシュート」は、WindowsMe/98SE/98用のユーティリティです。WindowsXP/2000ではインストールされません。

・本製品のドライバがインストールされると、[デバイス マネージャ]に次のデバイスが追加されます。デバイスマネージャの表示方法はWidnowsのヘルプを参照ください。

USB接続時

WindowsXP/2000:USB大容量記憶装置デバイス、汎用ボリューム、本製品のユニットドライブ名
WindwsMe:USB大容量記憶装置デバイス(*)、USB光ディスク、本製品のユニットドライブ名
Windows98SE/98:MELCO INC. USB-ATA/ATAPI Bridge Controller、
MELCO INC. USB-ATA/ATAPI Mass Storage Controller、
本製品のユニットドライブ名

*WindowsMeの場合、緑色の丸に白地で「?」と表示されます。これはWindowsMeが互換ドライバをインストールしたためです。本製品は正常に動作していますので、そのまま使用してください。

IEEE1394接続時

WindowsXP/2000:MELCO INC. 1394MEL-MO DRIVE 1394 SBP2 Device、汎用ボリューム
WindowsMe:IEEE1394光ディスク、SB2 Compliant IEEE1394デバイス、本製品のユニットドライブ名
Windows98SE:1394/USB光ディスク、SB2 Compliant IEEE1394デバイス、本製品のユニットドライブ名

Macintoshでのセットアップ手順

ドライバ(本製品を使用するために必要なソフトウェア)をインストールし、本製品を接続します。
インストール手順は、USBとIEEE1394のどちらで接続するかによって異なります。

・ USB接続の場合 ....【P8】
・ IEEE1394接続の場合(Mac OS X) ....【P9】
・ IEEE1394接続の場合(Mac OS 8.6/9)【P9】

注意 ・本製品をパソコンに接続する前に、必ず付属のCD-ROM「MO-CIUリーズユーティリティCD」でドライバをインストールしてください。

・インストールの前に、起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。

・別紙「はじめにお読みください」を参照して、あらかじめ本製品に縦置き用スタンド(またはゴム足)、ACアダプタを取り付けておいてください。

USB 接続の場合

ドライバやソフトウェアの必要はありません。そのまま本製品をパソコンに接続してください。【P10】

IEEE1394接続の場合(Mac OS X)

ドライバやソフトウェアの必要はありません。そのまま本製品をパソコンに接続してください。【P10】

IEEE1394接続の場合(Mac OS 8.6/9)

本製品をパソコンに取り付ける前に付属のユーティリティCDでDisk Drive TuneUp-SEをインストールする必要があります。

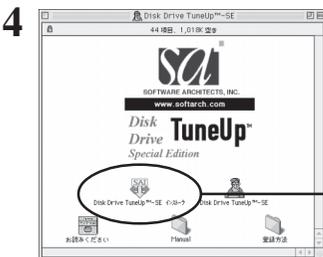
⚠注意
- MacOS8.6がインストールされたパソコンをお使いの方へ
  MacOS8.6をお使いの場合、FireWireドライバのアップデートを行う必要があります。アップデートしないと本製品を使用できません。アップデートプログラムは、次の手順でアップルコンピュータ社ホームページからダウンロードできます。
  ① アップルコンピュータ社トップホームページ(http://www.apple.co.jp/)上部にあるメニューから「サポート」をクリックします。
  ② 「ダウンロード」をクリックします。
  ③ 「ABC順リスト」をクリックします。
  ④ 「FireWire 2.3.3」をクリックします。
  ⑤ 「FireWire 2.3.3」のページをよく読み、ファイル「J-FireWire 2.3.3.smi」(MacBinary)をダウンロードします。
  ⑥ ダウンロードしたファイルをマウスでダブルクリックし、メッセージに従ってアップデートします。

  以上でFireWireドライバのアップデートは完了です。
- MacOS8.6がインストールされたPower Macintosh G3をお使いの方へ
  Power Macintosh G3のファームウェアのアップデートと、FireWireドライバのアップデートを行う必要があります。アップデートしないと本製品を使用できません。
  ① アップルコンピュータ社トップホームページ(http://www.apple.co.jp/)上部にあるメニューから「サポート」をクリックします。
  ② 「ダウンロード」をクリックします。「ソフトウェアアップデート」のページが表示されます。
  ③ 「ABC順リスト」をクリックします。
  ④ 「Power Macintosh G3 Firmware Update」をクリックします。
  ⑤ 「Power Macintosh G3 Firmware Update」のページをよく読み、ファームウェアのアップデートを行います。
  ⑥ 引き続き、上記手順「MacOS8.6がインストールされたパソコンをお使いの方へ」を参照して、FireWireドライバのアップデートを行います。

1 パソコンの電源スイッチをONにします。

2 本製品付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。

3 [Disk Drive TuneUp-SE]フォルダをダブルクリックします。

4

[Disk Drive TuneUp-SEインストーラ] アイコンをダブルクリックします。

次のページへ続く

2 セットアップ

5 インストーラが起動したら、以降は画面の指示に従って操作します。

⚠注意 インストール後、Mac OS起動時に表示されるドライブのアイコンが となる（「?」マークが表示される）ことがあります。これはDisk Drive TuneUp-SEのSCSI機器用のドライバで、SCSI機器を1台も接続していない場合に表示されます。本製品の動作には問題ありませんので、そのまま使用してください。

必ずお読みください

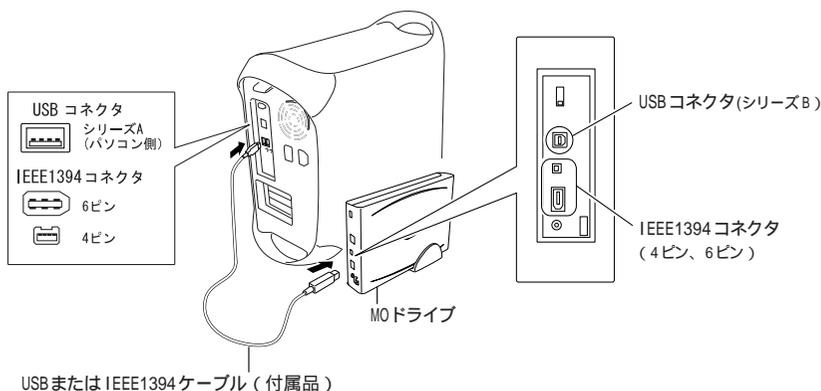
- Disk Drive TuneUp-SE CD-ROM内の［お読みください］ファイルに、Disk Drive TuneUp-SEの情報が記載されています。
- Disk Drive TuneUp-SEにはオンラインヘルプが付属しています。Disk Drive TuneUp-SEの詳しい操作方法は、オンラインヘルプを参照してください。 オンラインヘルプを読むには、Disk Drive TuneUp-SE起動後に【アップルメニュー】－［ヘルプ・・・］を選択してください。

以上でドライバのインストールは完了です。

次へ 本製品をMacintoshに接続します。【P10「Macintoshとの接続」】

Macintosh との接続

1 付属のUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを本製品に接続します。

ケーブルのコネクタ形状をよく確認して接続してください。

2 パソコンにUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを接続します。

⚠注意
- **必ず付属のケーブルで接続してください。付属品以外のケーブルでの使用は、弊社では保証しておりません。**
- **接続するUSBコネクタやIEEE1394コネクタの形状に合わせて、使用するケーブルを選択してください。**

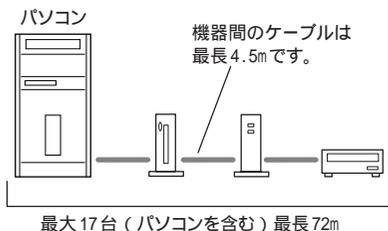
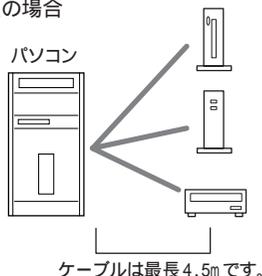
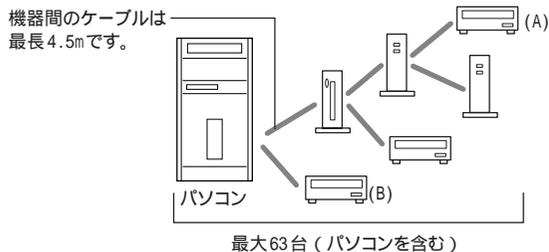
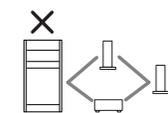
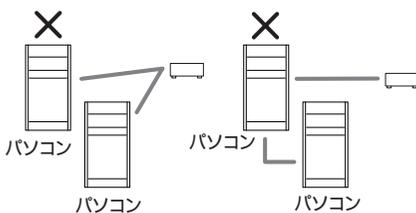
メモ パソコン側にUSBコネクタやIEEE1394コネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。

以上でドライバのインストールと本製品の接続は完了です。

IEEE1394機器の増設

次の図のように接続してください。

⚠注意
- **本製品の電源を切ると、本製品以降に接続している機器が使用できなくなります。**
- **本製品をUSBケーブルで接続した場合、IEEE1394機器を本製品に接続することは使用できません。**

● デイジーチェーンの場合

● スター型の場合

● ツリー型の場合

※終端から終端の機器の間に使用できるケーブル数は最大16本（16ホップ）です。
左図の例での終端は(A)と(B)となり、その間のケーブル数は①～④の4本（4ホップ）となります。

メモ Windows98SEの場合、新しくIEEE1394機器を接続したときに次の画面が表示されることがあります。その場合は、Windows98SE CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして［OK］をクリックしてください。IEEE1394ドライバがインストールされます。

「Windows98 Second Edition CD-ROM上の（中略）が見つかりませんでした。」と表示されたとき、［ファイルのコピー元(C):］にD:\WIN98と入力し、［OK］をクリックします。（下線部にはCD-ROMドライブのドライブ名を入力します。）

すでにIEEE1394ドライバがインストール済みのときは、以前インストールしたドライバを使用します。［はい(Y)］を数回クリックしてください。

3 本製品の使いかた

使用時の注意

Windows 搭載パソコンと Macintosh に共通の注意

● MOディスクのフォーマット（初期化）について
MOディスクは、使用する前にフォーマットする必要があります。【P17】

● パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。

● 本製品からOSを起動（ブート）することはできません。

● パソコン本体の省電力モードを無効にしてください。
サスペンド機能、レジューム機能、スリープ機能などは使用しないでください。本製品が正常に動作しなくなることがあります。

● MOディスクにラベルを貼るときは、指定の位置からはみ出さないようにしてください。
本製品内でラベルがはがれると、MOディスクが取り出せなくなることがあります。
取り出せなくなったときは無理に取り出そうとせず、そのまま弊社修理センターまで修理をご依頼ください。【P34】

● 本製品の接続直後にアクセスランプが点灯している間は、パソコンからアクセスしないでください。
本製品の準備ができていないため、アクセスエラーが発生します。

● 本製品のアクセスランプが点灯しているときは、絶対にパソコンから本製品を取り外したり、パソコンや本製品の電源をOFFにしないでください。データが破損するおそれがあります。

● 本製品1台を、複数のパソコンに同時に接続して使用することはできません。

● 本製品はホットプラグに対応しています。
本製品やパソコンの電源スイッチがONのときでもUSBケーブルやIEEE1394ケーブルを抜き差しできます。

> 本製品を取り外すときは、必ず定められた手順に従ってください。
> 【P15「本製品の取り外しかた（USB接続の場合）」、P16「本製品の取り外しかた（IEEE1394接続の場合）」】

⚠注意 MOディスクにアクセスしているとき（アクセスランプが点灯しているとき）は、必ず次の注意事項を守ってください。守らなかった場合、MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。
- USB/IEEE1394ケーブルの抜き差しは、一切しないでください（本製品以外の機器も含みます）。
- パソコンや本製品の電源スイッチをOFFにしないでください。

Macintoshだけに関する注意

● DOSフォーマットのMOディスクについて
次の場合、DOSフォーマットのMOディスクを本製品にセットすると、Mac OSに標準に付属しているフォーマッタが起動します。その場合は、[取り出し]をクリックしてMOディスクを取り出してください。

・540MBを超える容量のMOディスクを挿入した
DOSフォーマットの540MBを超える容量のMOディスクは、Mac OSでは使用できません。
※DOSフォーマットのMOディスクの場合は、128MB/230MB/540MBが使用できます。

・File Exchangeが無効になっている
File Exchangeの設定が無効になっていると、DOSフォーマットのMOディスクは使用できません。
※File Exchangeは[アップルメニュー]－[コントロールパネル]－[File Exchange]で設定できます。
DOSフォーマットのMOディスクを使用するには、[File Exchange]の[PC Exchange]タブ内のチェックボックスが3箇所すべてチェックされている必要があります。

● Mac OSを終了するときは
お使いのパソコンによっては、Mac OSを終了してもMOディスクが自動的に排出されないことがあります。Mac OSを終了させる前に本製品から必ずMOディスクを取り出してください。

● カードリーダーと併用する場合
パソコンを起動（再起動）するときは、必ずカードリーダーからメディア（スマートメディアやコンパクトフラッシュなど）を取り出した状態で行ってください。

MOディスクの挿入

MOディスクのラベル面を左に向け、ディスク挿入口に挿入します。

正しく挿入されると、アクセスランプ（緑色）が3～4秒間点灯します。

⚠注意 パソコンからMOディスクへのアクセスは、アクセスランプが消えてから行ってください。アクセスランプの点灯中は、MOディスクにアクセスできません。

MOディスクの取り出し

＜Windows搭載パソコンの場合＞

本製品のアクセスランプが消えていることを確認し、アクセスランプを押します。
MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

＜Macintoshの場合＞

デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップすれば、MOディスクが排出されます。
MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

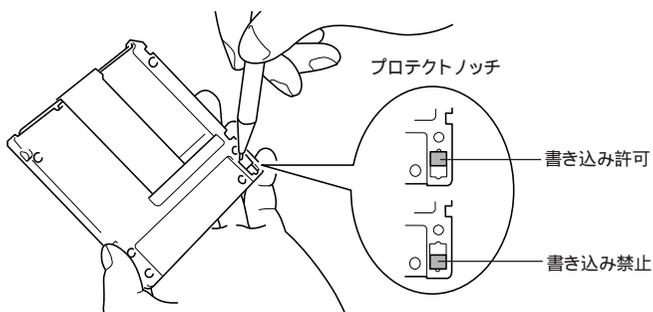
⚠注意
・MOディスクにアクセスしているとき(アクセスランプが点灯しているとき)は、絶対にアクセスランプを押さないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。
・パワーランプが点灯していないときは、アクセスランプを押してもMOディスクは排出されません。
ケーブルの接続を確認し、本製品背面の電源スイッチを「ON」にして本製品のパワーランプが点灯してから、アクセスランプを押してください。
それでもMOディスクを取り出せないときは、「MOディスクが取り出せないとき」【P14】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

MOディスクが取り出せないとき

パワーランプが消灯しているときは、アクセスランプを押してもMOディスクを排出できません。その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

⚠注意 この操作は、必ずパソコン本体の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

MOディスクを書き込み禁止にするとき

MOディスクに記録したデータを誤って消去してしまわないように、MOディスクへの書き込みを禁止できます。ボールペンなどを使って、MOディスクの背面にある「プロテクトノッチ」を書き込み禁止の位置に移動させてください。再度データを書き込むときは、プロテクトノッチを書き込み許可の位置に移動させます。

本製品の取り外しかた（USB接続の場合）

本製品をUSBケーブルで接続している場合、パソコンの電源スイッチがONのときは、次の手順で本製品を取り外します。

メモ
- 取り外し後に再度本製品を認識させるには、パソコンを再起動するか、ケーブルをいったん抜いて差し直してください。
- パソコンの電源スイッチがOFFのときには、そのまま取り外せます。

⚠注意 **本製品を取り外す前に、必ず本製品からMOディスクを取り出してください。****【P13「MOディスクの取り出し」】**

Windows

⚠注意 **必ず次の手順に従って取り外してください。次の操作を行わずに本製品を取り外すと、エラーメッセージが表示されます。**

1 **タスクバー(タスクトレイ)に表示されているアイコン または をクリックします。**

2 **取り外し(または停止)のメニュー項目をクリックします。**

取り外しメニューに表示されるデバイス名は製品によって異なります。デバイス名はP8を参照してください。

3 **本製品を安全に取り外すことができるというメッセージが表示されたら、本製品を取り外します。**

Macintosh

1 **本製品にMOディスクが入っているときは、デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップし、MOディスクを取り出します。**

2 **本製品を取り外します。**

本製品の取り外しかた（IEEE1394接続の場合）

パソコンの電源スイッチがONのときは、次の手順で本製品を取り外します。

メモ
- 取り外し後に再度本製品を認識させるには、パソコンを再起動するか、ケーブルをいったん抜いて差し直してください。
- パソコンの電源スイッチがOFFの時は、そのまま取り外せます。

⚠注意 **本製品の取り外しは、必ず本製品のアクセスランプが消えていることを確認してから行ってください。**

Windows

⚠注意 **必ず次の手順に従って取り外してください。次の操作を行わずに本製品を取り外すと、エラーメッセージが表示されます。**

1 タスクバー（タスクトレイ）に表示されているアイコン をクリックします。

2 取り外し（または停止）のメニュー項目をクリックします。

取り外しメニューに表示されるデバイス名は製品によって異なります。デバイス名はP8を参照してください。

3 本製品を安全に取り外すことができるというメッセージが表示されたら、本製品を取り外します。

⚠注意 **IEEE1394機器（本製品を含む）は、必ず終端に接続した物から取り外してください。終端ではない機器を取り外すと、次の警告画面が表示されます。**

※ 画面はWindowsMeの例です。

Macintosh

1 本製品にMOディスクが入っているときは、デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップし、MOディスクを取り出します。

2 本製品を取り外します。

4 MOディスクのフォーマット

本製品にセットしたMOディスクをフォーマットする方法を説明します。

※ フォーマットとは、MOディスクなどの記憶メディアをパソコンで使用できるように処理（初期化）することです。

フォーマット時の注意

他のアプリケーション（エクスプローラなど）が起動しているときは終了してください。

- ＭＯディスクに記載されている容量は、１ＭＢ＝1,000²byteで計算されています。
  ただし、Windows上でフォーマットするときやプロパティでMOディスクの容量を確認するときは、1MB＝1,024²byteで計算されるため、表示される容量が異なります。
- MOディスクによっては、フォーマットに数十分かかるものがあります。
  本製品の動作が停止しているように思われても、アクセスランプが点灯または点滅している間はフォーマットしています。そのままフォーマットが終わるまで待ってください。

Windows搭載パソコンでのフォーマット

Windowsには標準でフォーマッタが添付されていますが、異なるOS間でMOディスクを共有して使用する場合に互換性による問題が生じることがあります。MOディスクをフォーマットするときは、インストールされたフォーマッタ「MOフォーマット」を使用してください。
ここでは「MOフォーマット」の使いかたや使用上の注意について説明しています。

MOフォーマットに関する注意

- MOフォーマットを使用すると、MOディスク内のデータは全て消去されます。大切なデータを必ずバックアップしてからフォーマットしてください。
- MOフォーマットではパーティションを作成できません。また、リムーバブルメディア以外（ハードディスクなど）のフォーマットもできません。
- 本製品以外でのMOフォーマットの使用は、弊社では保証しておりません。
- FAT32フォーマットされたディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95（4.00.950 B/4.00.950 C）、WindowsXP/2000でのみ使用できます。
- MOフォーマットの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
  見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOフォーマットを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。
- WindowsXP/2000をお使いの方へ
  - WindowsXP/2000のフォーマット機能でフォーマットすれば、NTFS形式でMOディスクをフォーマットできますが、MOディスクを想定したフォーマット形式でないため、FAT16またはFAT32でフォーマットすることをおすすめします。
  - MOフォーマットでは、NTFSのフォーマットはできません。

次のページへ続く

・MOフォーマットでフォーマットされたMOディスクをWindowsXP/2000のフォーマット機能で再フォーマットする場合、いったんNTFS形式でフォーマットしてから希望のフォーマット形式でフォーマットしてください。

・NTFS形式フォーマットのMOディスクをWindowsXP/2000で使用すると、そのMOディスクはWindowsXP/2000でしか読み書きできなくなります。

・NTFS形式フォーマットのMOディスクを書込み禁止にした場合、書き込みだけでなく読み出しもできません。

・Ver.6.10以前のバージョン(*)のAplix社製「WinCDR」(CD−R/RWライティングソフトウェア)がインストールされている環境では、MOフォーマッタが正常に動作しません。株式会社アプリックスのホームページ(http://www.aplix.co.jp/)から、最新ドライバ(aplix2k.sys)をダウンロードし、インストールしてください。

*:WinCDRを起動し、メニューから、[ヘルプ]-[バージョン情報]を選択することにより確認できます。

MOフォーマットの起動と終了

・起動方法 ..... [スタート]−[プログラム(P)]−[MO ユーティリティ]−[MOフォーマット]を選択してください。

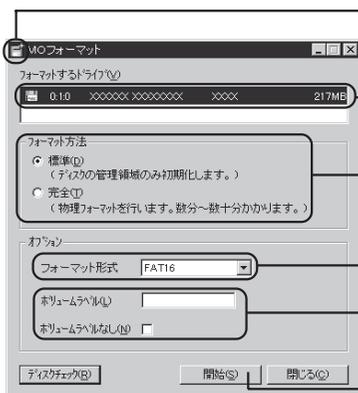
・終了方法 ..... MOフォーマットの[閉じる(C)]をクリックしてください。

フォーマット手順

次の手順でMOディスクをフォーマットします。

⚠注意
・フォーマットすると、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか必ず確認してください。
・フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチを一切操作しないでください。
・MOフォーマットを起動する前に、本製品をパソコンに接続しておいてください。
・誤って他のMOドライブを操作してしまわないために、MOドライブは1台だけ接続することをおすすめします。

1 フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入し、MOフォーマットを起動します。
【P18「MOフォーマットの起動と終了」】

2

ここをクリックして[バージョン情報(A)]を選択すると、MOフォーマットのバージョン情報が表示されます。

① フォーマットするMOドライブ(本製品)を選択します。

② フォーマット方法を選択します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ 必要に応じてボリュームラベルを入力します(最大半角英字11文字)。

⑤ [開始(S)]をクリックします。

次のページへ続く

・ドライブ情報 …………………… 0:1:0 XXXXXXX XXXXXXXX XXXX 230MB

<ホストアダプタ番号>:<ターゲットID>:<LUN番号>
MOドライブの名称　MOディスクの容量

・ ………………………… フォーマット方法　[標準]：論理フォーマットのみ行います(通常はこちらを選択します)。
[完全]：物理フォーマットを行い、その後に論理フォーマットを行います。

・フォーマット形式 ………… [FAT16]と[FAT32]が選択できます。
※FAT32フォーマットされたMOディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

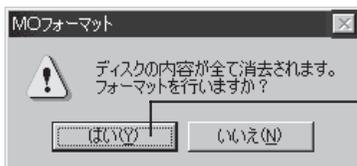
・[ディスクチェック]ボタン …… 表示内容を更新します。MOフォーマットを起動した後にMOディスクを挿入した場合や、MOディスクを入れ替えた場合にクリックします。

フォーマット方法で[完全]を選択している場合

「物理フォーマットは数分から数十分を要します。(以下略)」というメッセージが表示されます。物理フォーマットしてもよければ、[はい(Y)]をクリックします。

物理フォーマット中は経過時間が表示されます。

⚠注意　お使いの環境によっては、経過時間の表示が進まないことがあります。本製品のアクセスランプが点灯していれば物理フォーマットは動作していますので、完了のメッセージが表示されるまでお待ちください。

3

[はい(Y)]をクリックします。

⚠注意　フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチ、USBケーブル、ACアダプタの操作を一切行わないでください。

4

[OK]をクリックします。

MOディスクが排出されます。

以上でフォーマットは完了です。

4
MOディスクのフォーマット

Macintoshでのフォーマット

フォーマット手順は、USBとIEEE1394のどちらで接続しているかによって異なります。

- USB接続の場合 ....【P20】
- IEEE1394接続の場合 ......【P23】

⚠注意
- パーティション作成やフォーマットを行うと、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか確認してください。
- フォーマット中はマウスやキーボード、パワーボタン、リセットスイッチ、USBケーブル、IEEE1394、ACアダプタを一切操作しないでください。

USB接続の場合

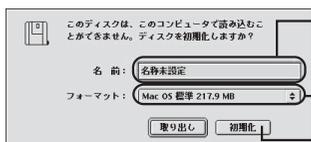
Mac OSのフォーマット機能を使用してフォーマットします。

< Mac OS 9でのフォーマット手順 >

1 フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入します。

未フォーマットのMOディスクや、540MBを超える容量のDOSフォーマットMOディスクを挿入した場合は、フォーマッタが自動的に起動します。P20の手順3以降に従って操作してください。

2 MOディスクのアイコンが反転表示になっていることを確認し、[特別] − [ディスクの初期化...]を選択します。

3

① 必要に応じてMOディスクの名前を入力します。

② フォーマット形式を選択します。(*)

③ [初期化] をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。

* 選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。

Mac OS標準 .... Mac OS8.1よりも前のシステムでも使用できます。
(ボリュームラベル:最大半角英数字27文字/全角13文字まで)

Mac OS拡張 .... Mac OS8.1よりも前のシステムでは使用できません。
(ボリュームラベル:最大半角英数字27文字/全角13文字まで)

DOS .... WindowsやDOSでも読み出せるフォーマット形式です。128/230/540MBのMOディスクに使用します。 容量が540MBを超える容量のMOディスクはDOS形式でフォーマットしてもWindowsで読み出すことはできません。
(ボリュームラベル:最大半角英数字11文字/全角5文字まで)

⚠注意 DOSフォーマットされたMOディスクをフォーマットしないでください。OSが不安定になります。DOSフォーマットのMOディスクをフォーマットするときは、IEEE1394で本製品を接続し、P23に記載の手順でフォーマットしてください。

Universal Disk Format ... 使用しないでください。

以上でフォーマットは完了です。

< Mac OS X 10.0.4でのフォーマット手順 >

⚠注意 MOディスクをMac OS 8.6/9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 8.6/9でディスクをフォーマットしてください。

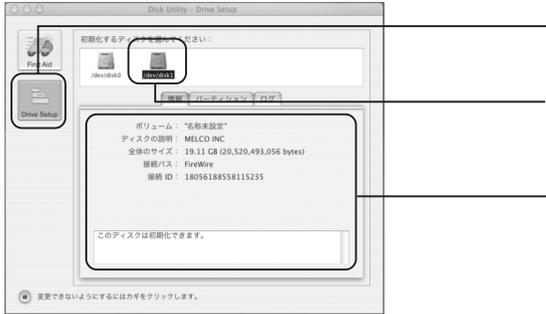
1 **デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。**

3 **[Disk Utility]アイコンをダブルクリックします。**

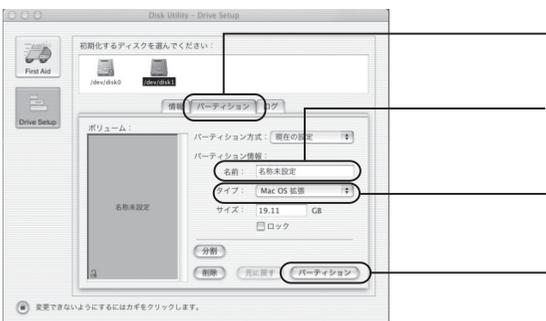
Disk Utilityが起動します。

4 **フォーマットするMOメディアを挿入します。**

5

① [Drive Setup] をクリックします。

② フォーマットするディスクをクリックします。

③ フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報はメディアによって異なります。

6

① [パーティション] タブをクリックします。

② MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ [パーティション] をクリックします。

メモ 選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。
Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

7 **「新規ボリュームを保存すると、既存ボリュームは全て消去されます・・・(以下略)」と表示されたら、[パーティション]をクリックします。**

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

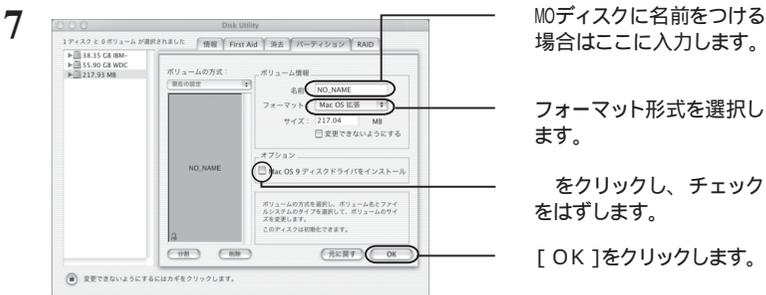
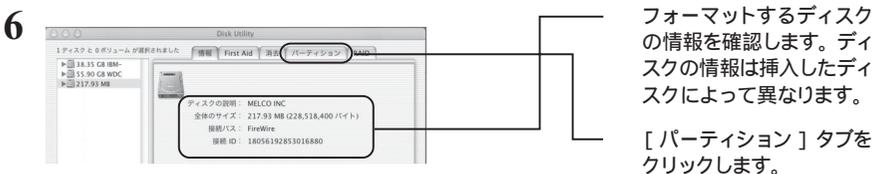
< Mac OS X 10.1でのフォーマット手順 >

⚠注意 **MOディスクをMac OS 8.6/9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 8.6/9でディスクをフォーマットしてください。**

1 **デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。**

3 **[Disk Utility]アイコンをダブルクリックします。**

4 **フォーマットするMOディスクを挿入します。**

5

フォーマットするディスクをクリックします。

6

① フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報は挿入したディスクによって異なります。

② ［パーティション］タブをクリックします。

7

① MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。

② フォーマット形式を選択します。

③ □をクリックし、チェックをはずします。

④ ［OK］をクリックします。

メモ **選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。**
Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

8 **「新規ボリュームを保存すると、既存ボリュームは全て消去されます・・・ (以下略)」と表示されたら、[パーティション]をクリックします。**

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

IEEE1394接続の場合

Mac OS8.6/9をお使いの方は、Disk Drive TuneUp-SEを使用してフォーマットします。

メモ Disk Drive TuneUp-SEの補足情報が、P29に記載されています。事前にお読みください。

⚠注意 Mac OS Xをお使いの方は、MacOSのフォーマット機能を使用してフォーマットします。フォーマット手順はP21、22を参照してください。Disk Drive TuneUp-SEは使用しません。

使用上の注意

Disk Drive TuneUp-SEを使用するときは、次の注意事項を必ず守ってください。注意事項を守らないと、Disk Drive TuneUp-SEが正常に動作しない場合があります。

● Disk Drive TuneUp-SEを起動する前に、他のアプリケーションを終了してください。
Disk Drive TuneUp-SEの動作中は、他のアプリケーションを起動したり、ファイルのコピーなどの操作をしないでください。

● 初期化するドライブは、Disk Drive TuneUp-SEを起動する前に接続してください。
Disk Drive TuneUp-SE動作中は、ドライブの抜き差しをしないでください。

● MacOSの初期化機能は使用しないでください。初期化画面が自動的に起動した場合は、「取り出し」を押して終了させてください。

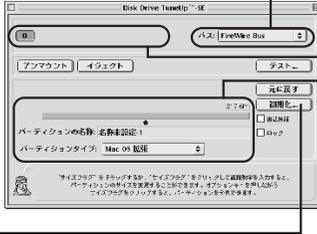
フォーマット手順

1 Disk Drive TuneUp-SEをインストールしたフォルダを開き、フォルダ内の［Disk Drive TuneUp-SE］アイコンをダブルクリックします。

Disk Drive TuneUp-SEが起動します。

次のページへ続く

2

① 本製品を接続しているバス[FireWire Bus]を選択します。

② フォーマットする機器の番号をクリックします。
※ 番号にマウスカーソルを重ねると、機器の詳細が表示されます。

③ 本製品にMOディスクをセットします。

④ パーティションタイプを選択します。
※ 容量表示（サイズフラグ）をマウスで左右にドラッグすると、複数のパーティションに分割してフォーマットすることもできます。

[Mac OS 標準](HFS)：　Mac OS8.1より前のシステムでも使用できます。
[Mac OS 拡張](HFS+)：　HFSより効率の良いファイル管理ができる形式です。Mac OS8.1より前のシステムでは使用できません。
[空き領域]：　パーティション（領域）を未使用の状態にします。
[DOS]：　本製品では使用することができません。

⚠注意 フォーマットするにはパーティションタイプを変更する必要があります。パーティションタイプを変更せずにフォーマットすることはできません。同一のフォーマット形式でメディアをフォーマットし直すには、一度パーティション（領域）を空き領域（未使用の状態）にしてからフォーマットする必要があります（例：Mac OS 標準→空き領域→Mac OS 標準）。

⑤ フォーマットを実行します。

以上でフォーマットは完了です。

メモ
- 詳しい操作方法は、Disk Drive TuneUp-SE起動後に【アップルメニュー】－[ヘルプ…]で表示されるオンラインヘルプを参照してください。
- MOディスクの書き込み／読み出し時にエラーが発生するときは、MOディスクを物理フォーマットすることをおすすめします。物理フォーマットはDisk Drive TuneUp-SEの起動後に、メニューから[構成]－[物理フォーマット...]を選択すれば実行できます。
  ただし、物理フォーマットには5～15分かかります。

5 付録

MO ディスク間のコピー（WindowsMe/98SE/98）

本製品付属の「MOコピー」を使用すれば、1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーが簡単にできます。

- **MOコピーは、他のアプリケーション（エクスプローラなど）をすべて終了してから操作してください。**
- **誤ってコピー元のMOディスクを上書きしないよう、コピー元のMOディスクは書き込み禁止にしておくことをおすすめします。【P14】**

制限事項

● コピーは同じ容量のMOディスク間でだけ行えます。コピー元とコピー先のMOディスクの容量が異なる場合はコピーできません。

例）・コピーできる
640MBのMOディスク→640MBのMOディスク
・コピーできない
230MBのMOディスク→640MBのMOディスク

メモ　Windows標準のディスクコピー機能は、MOディスク間のコピーには対応していません。

● ハードディスクドライブを経由してデータをコピーするため、コピーするMOディスクの容量以上の空き容量が1台のハードディスクに必要です。

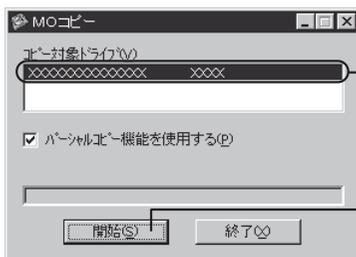
● ファイルフォーマットがFAT16形式のMOディスクを使用している場合にだけ、高速でコピーできます。

● MOコピーの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOコピーを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。

● 本製品以外でのMOコピーの使用は、弊社では保証しておりません。

コピー手順

1　**［スタート］－［プログラム(P)］－［MO ユーティリティ］－［MOコピー］を選択します。**

2

①コピーに使用するMOドライブ（本製品）を選択します。

②［開始(S)］をクリックします。

次のページへ続く

メモ　パーシャルコピー機能について

［パーシャルコピー機能を使用する(P)］のチェックマーク（✓）を付けた状態（初期状態）で［開始(S)］をクリックすると、ファイルデータだけがコピーされます。そのため、コピーにかかる時間が短くなります。
チェックマークを外した場合、コピー元のMOディスク内にあるすべての情報がコピーされます。

> パーシャルコピー機能は、次のMOディスクをコピー元としたときに使用できます。
>
> ・本製品付属の「MOフォーマット」でFAT16形式フォーマットしたMOディスク
>
> 次のMOディスクをコピー元にした場合、パーシャルコピーはできませんので、チェックマークは外してください。
>
> ・「MOフォーマット」以外のフォーマッタでフォーマットされたMOディスク
> ・FAT16形式以外のフォーマット形式（FAT32やNTFSなど）のMOディスク
> ・Macintoshフォーマット（HFSなど）のMOディスク

3　**コピー元のMOディスクを本製品にセットします。**

4　［OK］をクリックします。

5　コピー先のMOディスクを本製品にセットします。

自動的にMOディスクが検出され、ファイルがコピーされます。

6

同じ内容をさらに別のMOディスクにコピーするときは［はい(Y)］をクリックします。
MOコピーを終了するときは［いいえ(N)］をクリックします。

以上でコピーは完了です。

MO ディスク内のファイルの削除（WindowsMe/98SE/98）

本製品付属の「ダストシュート」を使用すれば、MO ディスク内のファイルを完全に削除できます。
ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでも復旧できないため、機密データの削除に最適です。

メモ Windows上の操作で削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOSのUndeleteコマンドで復旧できることがあります。

制限事項

- ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでは復旧できません。
  必要なデータは絶対にダストシュートでは削除しないでください。
- ダストシュートはファイルフォーマットが FAT16/32 形式の MO ディスクの場合にだけ使用できます。
- フォルダを削除することはできません。
- ダストシュートで削除できるのは MO ディスク内のファイルだけです。
  ハードディスクドライブなど他のメディア内のファイルは削除できません。
- ダストシュートによるデータの削除後もファイル名の痕跡だけは残ります。
  ファイルの実体は残りません。
- 本製品以外でのダストシュートの使用は、弊社では保証しておりません。

削除手順

1 ［スタート］－［プログラム(P)］－［MO ユーティリティ］－［ダストシュート］を選択します。

デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2 削除したいファイルの入った MO ディスクを本製品に挿入します。

3 削除するファイルをダストシュートの画面にドラッグ＆ドロップします。

［参照(B)］をクリックして、削除するファイルを選択することもできます。

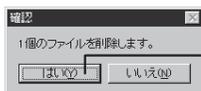
次のページへ続く

4

① 削除するファイルを選択して反転表示にします。

② ［削除開始(D)］をクリックします。

複数のファイルを削除するときは、[全選択(A)]をクリックしてすべてのファイルを選択してから[削除開始(D)]をクリックします。また、<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを押しながらマウスをクリックして、複数のファイルを選択することもできます。

5

［はい(Y)］をクリックします。

ファイルが削除されます。

6

さらに他のファイルを削除するときは［いいえ(N)］を、ダストシュートを終了するときは［はい(Y)］をクリックします。

以上でファイルの削除は完了です。

メモ 上記の手順以外にも、次の方法でダストシュートによるファイルの削除ができます。

※ 次の方法の場合、削除するファイルが下の方の階層にあると、同時に複数のファイルを削除できないことがあります。その場合は、複数回に分けてファイルを削除してください。

＜方法1＞

① エクスプローラや［マイ コンピュータ］でMOディスクの内容を表示し、削除したいファイルを右クリックします。
② 表示されたメニューから［送る(N)］－［ダストシュート］を選択します。
③ 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい(Y)]をクリックします。
④ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

＜方法2＞

① デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンに、MOディスク内の削除したいファイルをドラッグ&ドロップします。
② 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい(Y)]をクリックします。
③ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

アンインストール

Windows搭載パソコンで本製品付属のユーティリティやドライバが不要になったときは、次の手順でアンインストールしてください。

1 [スタート] − [プログラム(P)] − [MO ユーティリティ] − 「アンインストール] の順に選択します。

2 以降は画面の指示に従って操作します。

Disk Drive TuneUp-SEの補足情報（Macintosh）

フォーマット以外の機能

Disk Drive TuneUp-SEが持つフォーマット以外の機能について説明します。

● マウント／アンマウント
[マウント] ／ [アンマウント] ボタンをクリックすることで、ディスクをマウント／アンマウントできます。

● ディスクの検査
ディスクに不良ブロックがないか検査できます。検査したいディスクをマウントして、[テスト] ボタンをクリックしてください。

● MOディスクのイジェクト
[イジェクト] ボタンをクリックすれば、MOドライブにセットされているMOディスクをイジェクトできます。

● ロック(書き込み禁止)
指定したパーティションにロックをかけることができます。[ロック] チェックボックスをクリックしてチェックマークを付けてください。未フォーマットのパーティションを指定した場合、チェックボックスはグレー色に表示され、ロックすることはできません。

Disk Drive TuneUp-SEのサポートについて

● お問い合わせ先

Disk Drive TuneUp-SEの操作方法や製品情報は、ソフトウェアアーキテクツ社 日本事務所までお問い合わせください。

※ 株式会社メルコでは、Disk Drive TuneUp-SEに関するお問い合わせにはお答えしかねます。あらかじめご了承ください。

ソフトウェア・アーキテクツ・インク

住所： 東京都渋谷区笹塚 1-52-18 ルアンビル5 階

FAX： 03-5304-5692

E-mail： support@softarch.com

電話： 03-5304-5690（平日 9:00 ～17:00）

※ できるだけ、FAXまたはE-mailにてお問い合わせください。

● ユーザー登録

インターネットで登録するためのhtmlファイルが、付属のDisk Drive TuneUp-SE CD-ROMの［登録方法］フォルダに収録されています。htmlファイルをWEBブラウザで開き、必要事項を記入欄に入力していただいた上で、［今登録する］をクリックしてください。

困ったときは

本製品が認識されない（ドライブアイコンが表示されない）

USBケーブルやIEEE1394ケーブルが本製品やパソコンに正しく接続されているか確認してください。

MO ディスクに書き込めない

MOディスクのプロテクトノッチが書き込み禁止になっていないか確認してください。プロテクトノッチを書き込み許可の位置にしてください。

アクセス時に「ドライブの準備ができていません」というメッセージが表示される

MOディスクが正しく本製品に挿入されているか確認してください。
MOディスクの挿入後、アクセスランプが点灯している間はドライブは準備中です。アクセスランプが消灯してから操作を行ってください。

MO ディスクが取り出せない

WindowsXP/2000
Windowsの書き込みキャッシュが有効のとき、OSの仕様によりイジェクトボタンを押してもMOディスクは排出されません。このようなときは、MOドライブのアイコンを右クリックし、[取り出し]をクリックしてください。MOディスクが排出されます。

Macintosh
OS終了時に通常は自動的にMOディスクが排出されますが、お使いのパソコンによっては排出されないことがあります。このようなときは付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的に MOディスクを排出してください。

空き容量はあるが MO ディスクにファイルをコピーできない

FAT16形式でフォーマットされたMOディスクの場合、ルートディレクトリに記録できるファイルの数には上限があります（ロングファイル名のファイルがない場合に最大512個）。

そのため、MOディスクに空き容量があるにもかかわらずファイルがコピーできない場合は、ルートディレクトリにあるファイルを1つ削除してフォルダを作成してください。その後、そのフォルダ内にファイルをコピーしてください。

特定のソフトウェアで本製品が使用できない

パソコンに標準搭載されているドライブ専用に作られたソフトウェア（※）上で、本製品を使用できないことがあります。

その場合はパソコンに標準搭載のドライブ（ハードディスクなど）を使用するか、他のソフトウェアを使用してください。

※ソフトウェアの仕様はソフトウェアメーカ（プリインストールソフトではパソコンメーカの場合があります）にご確認ください。

Macintosh で MO ディスクをセットしてもすぐに排出される

メディアを入れたままのカードリーダー(弊社製MCRなど)と併用した場合、本製品に未フォーマットのMOディスクを挿入するとすぐに排出され、MOディスクをフォーマットできません。

カードリーダー内のメディアを取り出してからフォーマットしてください。

Macintosh で本製品がマウントされない

マウンタが競合している可能性があります。本製品付属以外のフォーマットユーティリティやマウンタがすでにインストールされているときは、そのユーティリティやマウンタをアンインストールしてください。

本製品をUSB接続したら画面全体が青くなり何も操作できなくなった(WindowsMe)

WindowsMeでは、簡単セットアップでドライバをインストールする前に本製品を接続するとシステムが停止することがあります。このようなときは、USBケーブルを抜きパソコンの電源をOFFにしてください。続いて別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバをインストールしてください。

UHB-S4(弊社製 USB ハブ)を使用すると本製品が認識できない

USBコントローラに「Intel 82801BA/BAM USB Universal Host Controller または Intel 82801BA/BAM UHCI」を使用しているパソコン(※)では、本製品をUHB-S4に接続しないでください。本製品が認識されない、または正常に動作しないことがあります。このようなときは、本製品をパソコン本体の USBコネクタに直接取り付けてください。

※USBコントローラの認識方法

WindowsMe/98SE/98:	[マイコンピュータ] アイコンを右クリック→ [プロパティ(R)]をクリック→ [デバイスマネージャ] タブをクリック→ [ユニバーサル シリアル バス コントローラ] をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。
WindowsXP:	[スタート] をクリック→ [マイコンピュータ] を右クリック→ [管理(G)] をクリック→ [デバイスマネージャ] をクリック→ [USB(Universal Serial Bus)コントローラ] をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。
Windows2000:	[マイコンピュータ] アイコンを右クリック→ [管理(G)] をクリック→ [デバイス マネージャ] をクリック→ [USB(Universal Serial Bus)コントローラ] をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。

簡単セットアップを完了しても MO ドライブのアイコンが表示されない

WindowsMe/98SE/98

ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバを再度インストールしてください。

WindowsXP/2000

ACアダプタ、USBケーブルまたはIEEE1394ケーブルが接続されていない可能性があります。接続を確認してください。

WindowsXPでの書き込み速度が遅い

本製品をWindowsXP搭載パソコンに接続すると、書き込みキャッシュ(*)が無効になります。WindowsXPで本製品の性能を発揮するには、次の手順で書き込みキャッシュを有効に変更してください。

*ドライブのキャッシュとパソコンのメモリを使用して書き込み時の処理速度を向上させる機能です。
*出荷時設定では有効になっています。また、WindowsXP以外のOSでは、無効に切り替わることはありません。

① [スタート]をクリックします。
② 表示されたメニューから、[マイコンピュータ]を右クリックします。
③ [管理]をクリックします。
④ [デバイスマネージャ]をクリックします。
⑤ [ディスクドライブ]をダブルクリックします。
⑥ 本製品のユニットドライブ名をダブルクリックします。
　 下線部は製品によって表示が異なります。
⑦ [ポリシー]をクリックします。
⑧ [パフォーマンスのために最適化する]をチェックします。
⑨ [ディスクの書き込みキャッシュを有効にする]をチェックします。
⑩ [OK]をクリックします。

以上の手順で書き込みキャッシュは有効になります。

動作環境

温度　5～35℃

湿度　20～80%(結露なきこと)

消費電力

MOドライブ(本体)に記載

※最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)をご参照ください。

5
付録

■ 保証書について

本製品を梱包している箱には、保証書と本製品の修理についての条件を定めた約款が記載されております。お客様が無償修理を要求する場合に必要となりますので、大切に保管してください。

■ ユーザー登録について

弊社ホームページ(https://online.melcoinc.co.jp/user_t/index.html)にて、ユーザー登録できます。

※ ユーザー登録時、製品シリアルNo.の入力が必要となります。製品シリアルNo.は、製品本体にシールで貼り付けられていますので、パソコンに取り付ける前にご確認ください。
※ ユーザー登録された方には、弊社製品に関する情報をお届けします。
※ ユーザー登録後に製品を譲渡した場合、ユーザー登録は変更できません。
※ 本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方でなければ受けられません。

■ 修理について

製品をお送りいただく前に、マニュアルを参照して設定や接続が正しいかを再度ご確認ください。正しく接続や設定をしても改善されない場合は、修理票と保証書の原本に必要事項をご記入の上、製品と一緒にお送りください。修理票は、弊社ホームページにてダウンロード可能です。修理票の添付が困難な場合は、以下の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付して製品をお送りください。

① 返送先 [氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]
② 平日昼間の連絡先
[氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]
③ 修理対象のメルコ製品名
④ 弊社製品ハードウェア シリアルナンバー
⑤ 弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー
⑥ 具体的な症状/エラーメッセージ
⑦ 発生状況 [始めから/ある日突然/環境を変えたら]
⑧ 発生頻度 [必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他]
⑨ コンピュータ [本体メーカ名/型番/シリアルナンバー]
⑩ ハードディスク [メーカ名/型番/シリアルナンバー]
⑪ ディスプレイ [メーカ名/型番/シリアルナンバー]
⑫ その他周辺機器 [メーカ名/型番/シリアルナンバー]
⑬ OS(オペレーティング・システム)
[ソフト名/メーカ名/バージョン]
⑭ 製品以外の添付品 [付属ソフトなど]

製品送付先	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 株式会社メルコ 修理センター宛
電話番号	052-619-1289

※ ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは承っておりません。製品に関するお問い合わせはインフォメーションセンターへお願いします。

※ 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断り致します。

※ 送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社は責任を負いかねますので、輸送会社に別途保証をしていただくなどの措置を取ってください。

※ 修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。

※ ハードディスクなどの記憶装置をお送りいただいた場合、その記憶装置はフォーマット致します。また、記憶装置を修理する場合は、データが記憶されているディスク部分を交換することがございます。お送りいただく際、必要なデータは必ず事前にバックアップを作成しておいてください。

※ 修理期間は、製品の到着後７日程度（弊社営業日数）を予定しております。

MO-CIUシリーズ ユーザーズマニュアル

2002年6月10日 第2版発行
発行　　株式会社メルコ

弊社製品の情報は次の方法で入手できます

http://www.melcoinc.co.jp/

インフォメーションセンター

〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15　株式会社メルコ ハイテクセンター内

本製品のサポートは下記で承っております。

ストレージ製品専用ダイヤル

<東　京> 03-5326-3753

月～金 9:30～12:00/13:00～19:00　※祝日を除く
土/祝 9:30～12:00/13:00～17:00　※年末年始と日曜日を除く

<名古屋> 052-619-1188

月～金 9:30～17:00　※祝日を除く

※ 事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認しておいてください。
- コンピュータ名と使用OS
- 本製品の製品名とシリアルナンバー
- 現象（具体的なエラーメッセージなど）

※ 受付時間や電話番号などは、変更されることがあります。最新の内容は弊社ホームページでご確認ください。